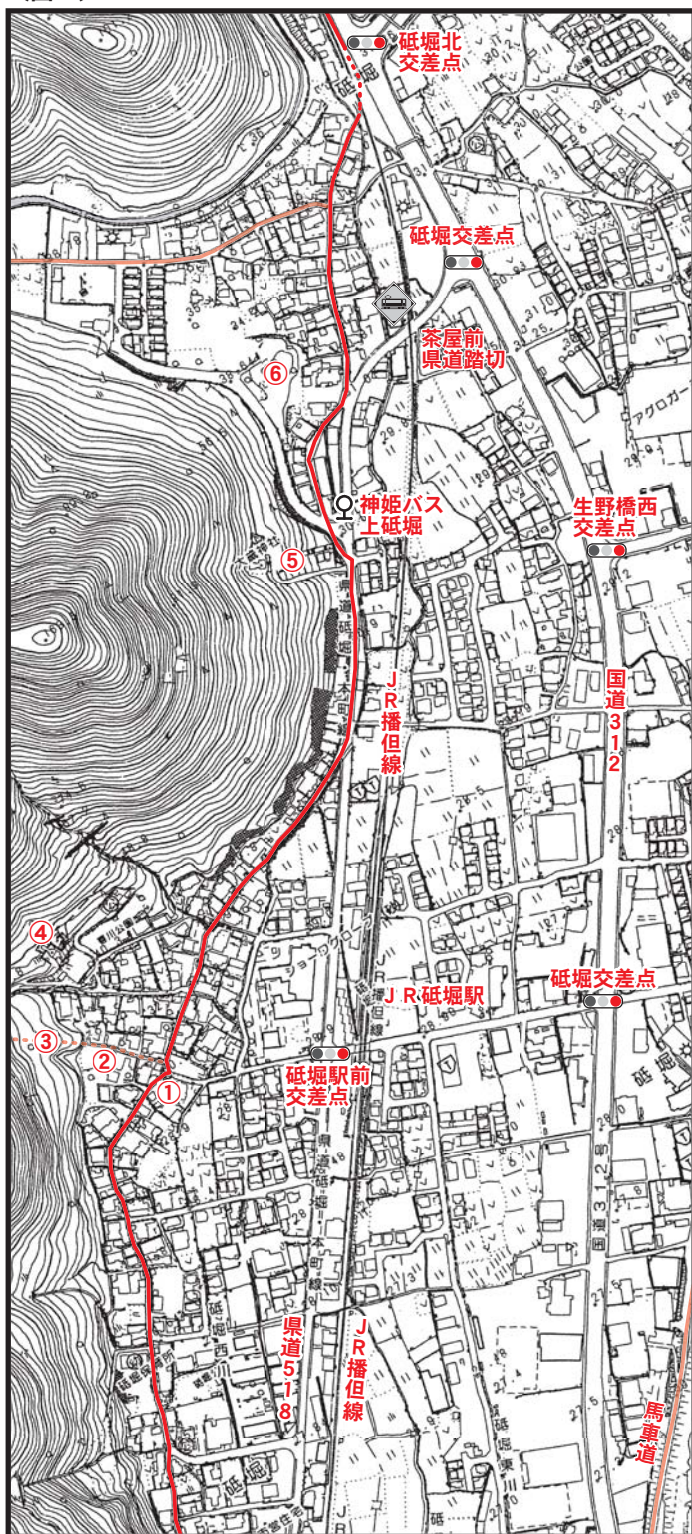




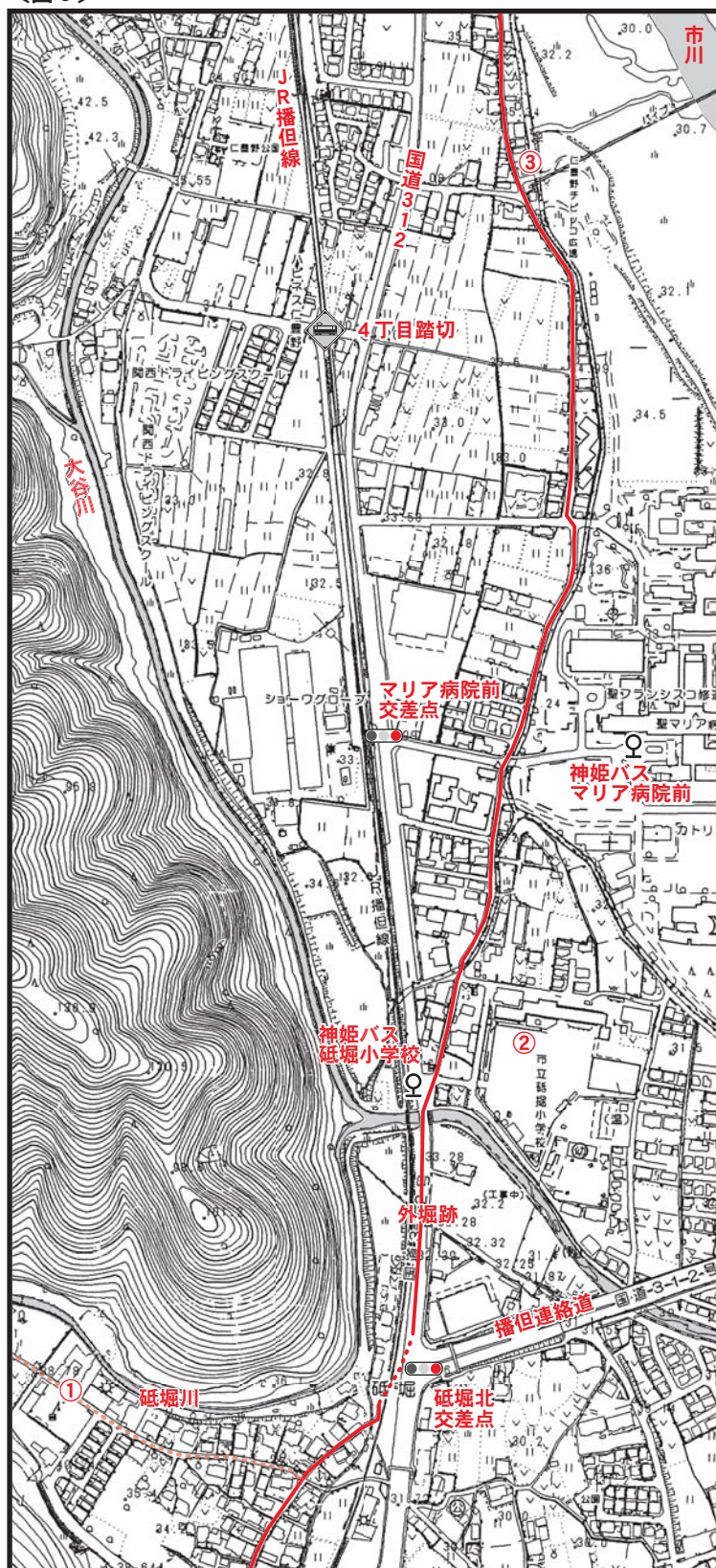
『生野道』をたずねて その2

<図5>



- ①地蔵堂(中央の石像地蔵菩薩坐像は台石に「法界万霊」、向かって右の光背型地蔵菩薩立像は「日本回國神」の刻銘)、生野道と推定有明道の交差点に位置。
- ②採石場跡推定地(増位山東麓や北麓は姫路城石垣採石地であり採石場で加工し生野道を城下まで運搬したとみられる)
- ③有明道跡推定地(糸の細道ともいい歌枕で著名。砥堀から増位山東の峯の有明峯までの道をいう。在原業平「はりまなる いとの細道 わけ行けは とほりに見ゆる あり明の空」)
- ④春川神社(境内に宝暦9年(1759)と慶応2年(1866)石燈籠、元治元年(1864)石鳥居、姫路城石垣採石時と推定される矢穴痕のある石材)
- ⑤大歳神社(旧上砥堀村の鎮守、元禄10年(1697)北麓より当地に移転、境内に正徳3年(1713)と元治元年(1864)の石燈籠、安政6年(1859)石鳥居)
- ⑥権現山古墳(姫路市指定史跡、7世紀中頃の方墳と推定、墳丘部は改変されているが市内最長14mの横穴式石室)

<図6>

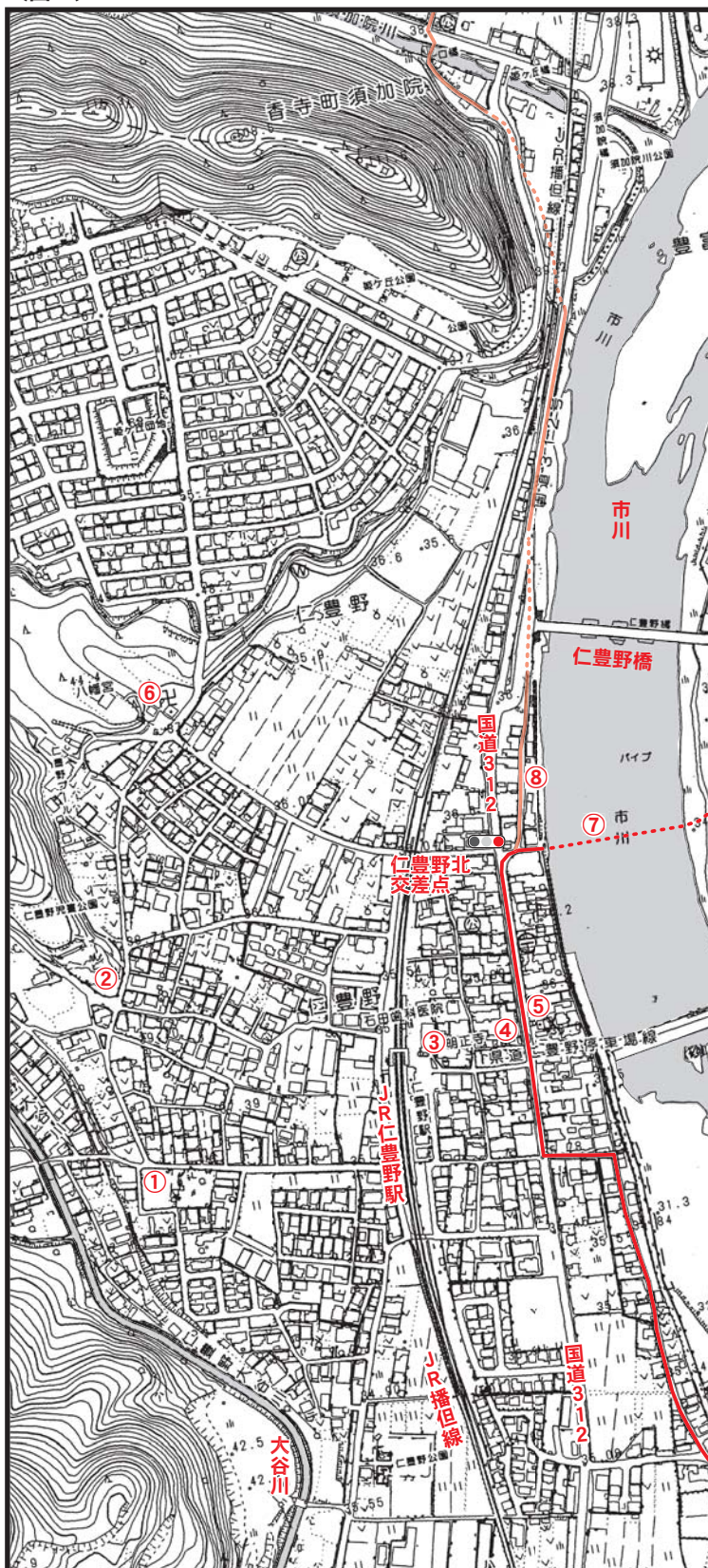


- ①増位山・広嶺山への道(巡礼道の1ルートとして使われていたという)
- ②和辻哲郎詞書碑(砥堀小学校校庭に石碑「ちから 成長を欲するものはまず根を確かにおろさなくてはならぬ 上にのびる事をのみ欲するな まず下に食い入ることを努めよ」)
- ③砥堀井堰樋門の碑(用水取水樋門、昭和32年記念碑、平成元年改修碑)



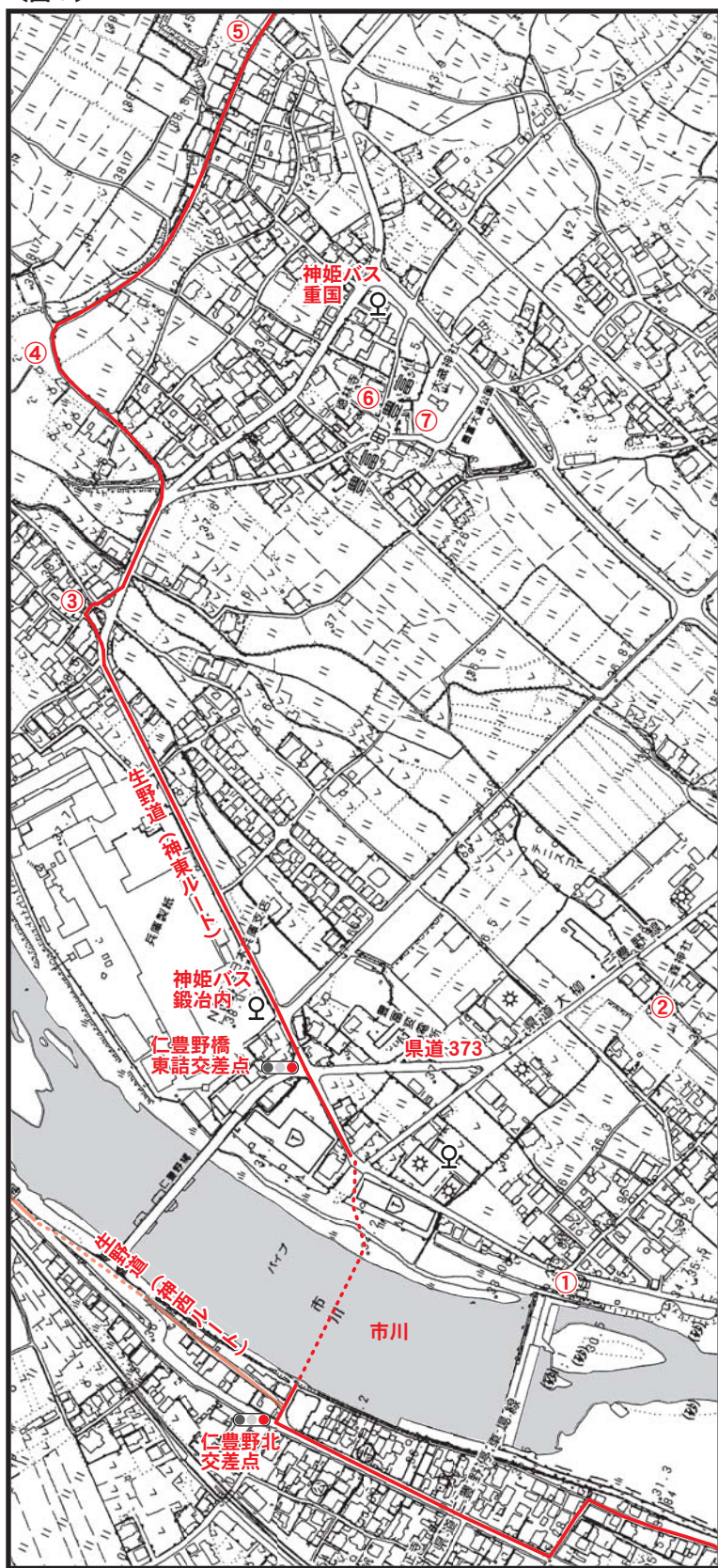
「元禄国絵図」部分(個人蔵)、
「:」は一里塚、黒太線は郡境。

<図 7>



- ① 仁豊野の南墓地（文化 13 年（1816）六地藏、旧上仁豊野村）
- ② 仁豊野の北墓地（江戸時代の六地藏は東側民家前、旧下仁豊野村）
- ③ 明正寺（浄土真宗本願寺派、寛永 17 年（1640）正悦開基、寛文 9 年（1669）寺号免許、天和 2 年（1682）木仏付与）
- ④ 和辻哲郎生家碑（哲学者、明治 22 年（1889）生、昭和 35 年（1960）没、主著『倫理学』、文化勲章受章、生誕百年 1988 年より姫路市は和辻哲郎文化賞を設定）
- ⑤ 神東郡・神西郡境推定地（「元禄国絵図」は南側の下仁豊野村を神東郡、郡境を越える手前に一里塚、郡境を越えた上仁豊野村を神西郡とし、上仁豊野村から市川の渡しで鍛冶内・重国から太尾を経て北上する生野道を朱太線で描くので神東ルートがいわゆる生野道本線。「慶長国絵図」は当地付近に橋爪村と西村を描くが船場川改修と関連し寛永 3 年（1626）橋爪村は市川左岸に移転、西村は消滅して当地に仁豊野村が成立、のち上下に分村したが村境＝郡境は不明確、明治 8 年（1875）両村合併し神東郡仁豊野村となり郡境は旧上仁豊野村と須加院村境となる。明治 2 年（1869）に亀山雲平が反故紙を須加院村御紙渡所に届けた帰途に仁豊野茶屋に立ち寄っており市川流域北部からの年貢米をはじめ物資集散場所として賑わっていたとみられる）
- ⑥ 泡子八幡神社（仁豊野の鎮守、境内に慈眼禅寺の扁額を掲げる地藏堂、庚申堂、金比羅社、天満宮、秋葉愛宕大権現、早瀬稲荷、得平稲荷、享保 14 年（1729）石燈籠、明治 2 年（1765）手水石、文政 13 年（1830）石燈籠は竿に「右 たじま 北条」、「左 ひめぢ ひろみね」と刻銘する道標であり元は渡し場の西、仁豊野北交差点西北隅に「右 たじま 北条」を南向きに立っていたと推定。大正 15 年（1926）地図に仁豊野北交差点西北隅に神社の記号）
- ⑦ 市川渡し場推定地（「元禄国絵図」は上仁豊野村から渡しで東に向かう神東ルートを本線として朱太線で描く）
- ⑧ 生野道神西ルート（「元禄国絵図」は上仁豊野村から北上する神西ルートを支線として朱線で描く）

<図 8>



- ①地蔵堂（橋爪 文政 9 年（1826）石像地藏菩薩坐像、橋爪墓地より移設した六面石幢、堂横の六地藏は元は南向き）
- ②二森神社（橋爪の鎮守 文化 9 年（1812）手水鉢）
- ③地藏堂（鍛冶内 石像地藏坐像 道標（「たんば た志ま」と刻銘））
- ④鍛冶内墓地（江戸時代の六地藏、これより北に鍛冶内鎮守の大歳神社）
- ⑤甲八幡神社御旅所（重国 安永元年（1772）石鳥居、寛政 11 年（1799）石燈籠一對）
- ⑥阿弥陀堂（重国 宝暦 3 年（1753）「重国村明細帳」にみえ文化 8 年（1811）改築（鬼瓦篋書銘）、平成 17 年改築、奇数月は地内の真宗門徒、偶数月は曹洞宗信徒が使用、徳林寺とも称す、江戸時代に当村・近隣の民より寄進された西国三十三所観音像、境内の地藏堂に元文 2 年（1737）石像地藏菩薩立像）
- ⑦大歳神社（重国・酒井の鎮守、境内の住吉・竹大歳神社、寛保元年（1741）書写山奥ノ院より勧請した白山大権現は安政 4 年（1857）当地に移転、稲荷・愛宕・吉広稲荷・高德大明神は明治 12 年（1879）当地に移転。安政 5 年（1858）石鳥居、文化 3 年（1806）・安政 4 年（1857）・万延元年（1860）の石燈籠、文化 3 年（1806）手水石など）